

令和6年度シラバス

教科	芸術科		科目	書道 I	単位数	2
学年	1年生	コース	共通			
使用教科書	書道 I (東京書籍)					
副教材等						

1 学習目標と評価の観点の趣旨

学習目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。		
評価の観点の趣旨と定期考査の配点基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 定期考査の配点基準(目安) 実施しない	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。 定期考査の配点基準(目安) 実施しない	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

2 学習計画と評価方法

学期	単元	主な学習活動	考査範囲
1 学期	書写から書道へ 「書写で学んできたこと」	・小・中学校で学習してきた国語科書写の確認として、楷書や行書に調和する仮名について学習する。 ・書の特性を理解し、書美の要素について学ぶ。	なし
	楷書の学習 「楷書の用筆法・結構法」 「九成宮醜泉銘の鑑賞と臨書」 「孔子廟堂碑の鑑賞と臨書」 「雁塔聖教序の鑑賞と臨書」 「自書告身の鑑賞と臨書」 「牛嶽造像記の鑑賞と臨書」	・楷書の古典を臨書する意義について理解する。 ・唐時代に活躍した能書家の代表的な古典を主に学習する。各古典の書美について学び、表現技法を身に付けることができるようにする。 ・古典の持つ伝統的な美を感じ、字形・全体の構成などを工夫しながら臨書する。	
	行書の学習 「行書の用筆法・特徴」	・各古典の基本的な特徴を把握することにより、多様な行書の用筆法を習得する。	

2 学期	「蘭亭序の鑑賞と臨書」 「風信帖の鑑賞と臨書」  篆書の学習 「篆書の用筆法・特徴」 「泰山刻石の鑑賞と臨書」	・行書の特徴について学び、代表的な行書の古典を鑑賞し、能書家や時代背景等を理解する。 ・太細の変化や空間美について考え、紙面に体裁よく臨書する。 ・篆書が成立する過程や隷書の特徴について理解する。 ・篆書の基本的な用筆、運筆、結構法を習得し、特徴を理解する。 ・篆書の古典の価値とその根拠について考え、小篆のよさや美しさを味わいながら臨書する。 ・落款の意味や種類について学び、篆刻の歴史や篆刻が書表現の一つであることを理解する。 ・印を作り上げるまでの手順と印を彫るときに刀法を理解し、自分の名印を作成し、鑑賞する。	なし
	篆刻の学習 「篆刻の手順・検字・印稿」 「連刀」 「補刀」 「押印・鑑賞」 仮名の書の学習 「仮名の成立と発達」 「基本的な筆使い・平仮名」	・我が国独自の文字である仮名について成立過程と字源について理解する。 ・仮名の流れるような筆使いに慣れ、基本的な用筆法を習得する。	
3 学期	「変体仮名・連綿」 「蓬萊切の鑑賞と臨書」 「短冊」  漢字仮名交じりの書の学習 「漢字仮名交じりの書について」 「作品構成」 「ことばの選定・表現意図の明確化」 「作品制作」 「作品鑑賞」	・変体仮名や連綿の種類・方法について理解し、仮名の書美を味わいながら鑑賞し、その書法を学ぶ。 ・名筆を通して、単体や連綿、全体構成など、日本の伝統的な書美を理解し、仮名の書の表現の基本的な用筆、運筆について学習し、原寸大の大きさと臨書する。 ・漢字と仮名の表現上の特徴を理解し、創造的な表現のために漢字と仮名を調和させる技能を習得し、表現意図を考え制作する。 ・用具・用材の使い方や種類を変えることで表現に変化がつけられることを理解する。 ・作品を講座内全員で鑑賞する。	なし
	各学期の観点別学習状況の評価の方法 知識・技能＝「書の表現性とその表現効果の関わりや書を構成する要素の働きについて理解すること」、「古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付け、表現すること」などを、各単元の作品や発表を主な判断材料として評価します。 思考・判断・表現＝「古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫すること」、「作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わうこと」などを、各単元の作品や発表さらに授業に取り組む様子を通して評価します。 主体的に学習に取り組む態度＝授業に取り組む様子や観賞プリントなどの記録を通して評価します。 学年末の評価 各学期の成績から算出して観点別学習状況評価と評定を出します。		